

沖縄県における 観光成果指標の取組

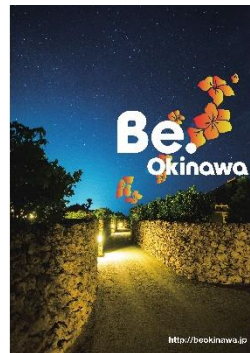
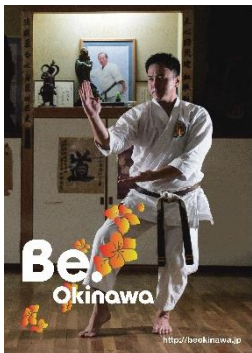


沖縄県文化観光スポーツ部

沖縄観光は近年、

- プロスポーツの**キャンプ**
- 「**空手**発祥の地」である歴史
- M I C E** 関連イベントの開催

など、様々な取り組みを行っているが、美しい自然を生かした観光が最大の魅力である。





平成24年度に策定した第5次沖縄観光基本計画では平成33年度の「将来像」を
「世界水準の観光リゾート地」と定めている。

各施策の位置づけ

沖縄21世紀ビジョン基本計画(10年)

沖縄県が目指すべき将来像を描いた基本計画。観光以外にも経済、教育、福祉など分野ごとに基本施策を定めている。

第5次沖縄県観光基本計画(10年)

10年後の沖縄観光が目指すべき目標を定めた10年計画。目標値は入域観光客数1,200万人、観光収入1.1兆円。

沖縄観光推進ロードマップ実施事業

基本計画の目標を達成するため、各施策の進捗状況を随時確認。

ビジットおきなわ計画(単年度計画)

基本計画の目標を達成するための単年度計画。

沖縄観光成果指標

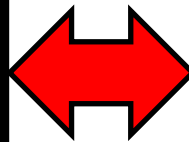
「世界水準の観光リゾート地」を目指すため、県民指標や環境指標、マネジメント指標など間接的に関わる分野を含めた成果指標。

観光要覧などで公表。

第5次計画では目標と合わせて
達成イメージを設定。

目標

観光客数
1,000万人
観光収入
1兆円

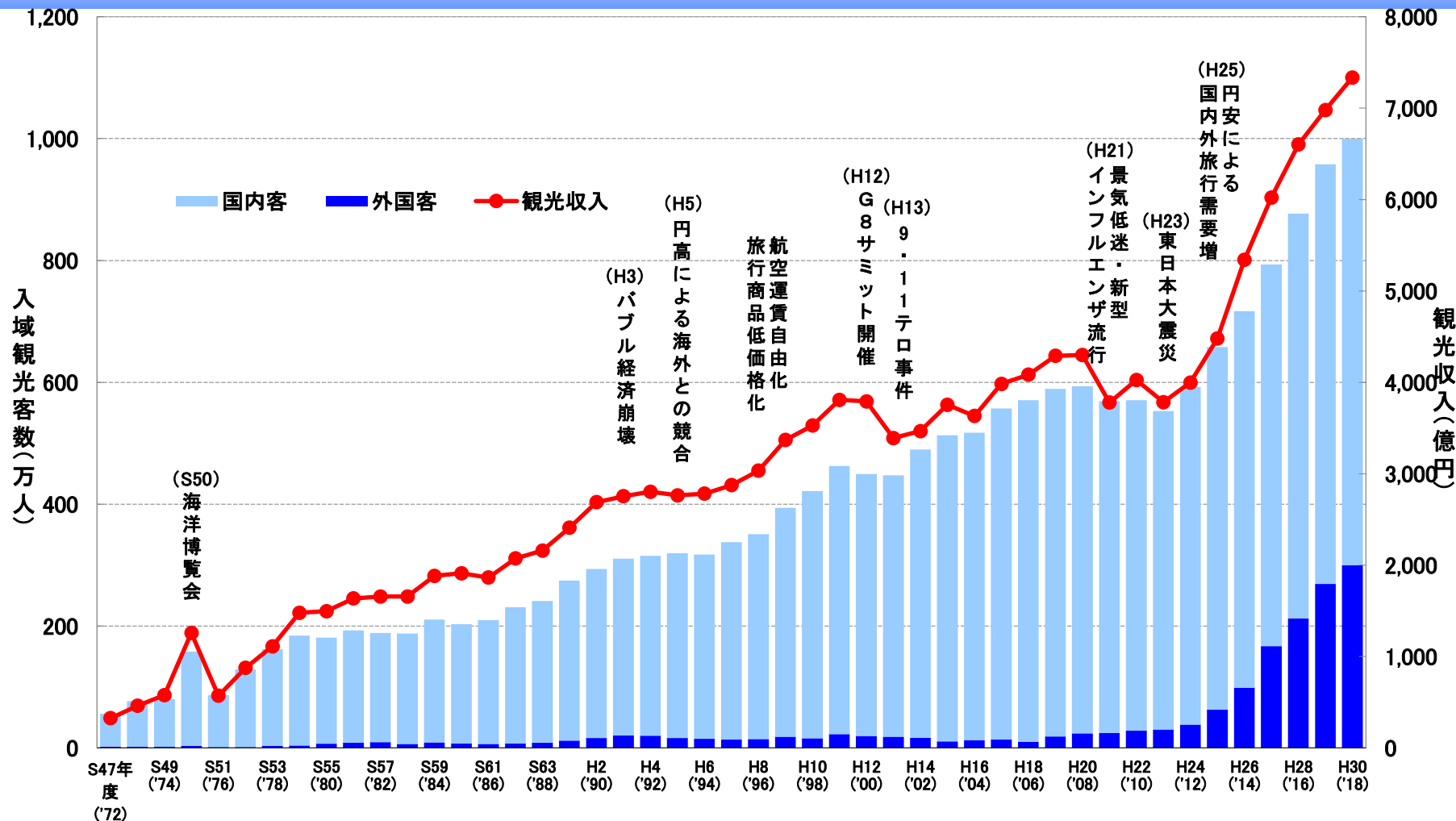


達成イメージ

- 観光客の視点
- 観光産業の視点
- 県民の視点
- 観光資源の視点

「数」だけではなく「質」を確保

入域観光客数と観光収入の推移（年度）



第5次計画策定時約600万人 → 当初目標値1,000万人

平成30年度に**達成**

沖縄観光成果指標検討事業

事業の体系

世界水準の観光リゾート地

洗練された観光地としての基本的な品質を確保するとともに、独自の観光価値を発揮することにより、アジア・太平洋地域における競合地との比較対象の中で「沖縄／OKINAWA」のポジションが確立され、国内外において高いブランド力を保持する観光リゾート地として認知された状態となっている。

将来像

達成イメージ

成果指標

(観光客の視点)

観光客は、国内外から、ニーズに応じた観光地を訪れることができ、リラックスして沖縄ならではの感動体験と交流を楽しんでいる。

(観光客指標)

- 観光客満足度
- A
- B
- C

(観光産業の視点)

観光産業は、安定的に観光収入を得ていて、県経済を牽引する存在であり、誇りと責任ある産業体を形成している。

(観光産業指標)

- 観光消費額
- D
- E
- F

(県民の視点)

県民は観光から社会的・経済的なメリットを最大限享受しており、沖縄における観光の価値を認め、積極的に魅力的な観光地づくりに参画している。

(県民指標)

- 県民意識
- G
- H
- I

(観光資源の状態)

観光資源は、自然・文化資源ともにその価値が尊重されており、地域の状況に応じた適切な活用がされるとともに、その保全が図られている。

(観光資源指標)

- 自然保全度
- J
- K
- L

モニタリング

沖縄観光成果指標検討事業

事業の概要

○平成25年度に委託事業（県費）で実施

受託団体：（公財）日本交通公社

○アドバイザー委員会を4回開催

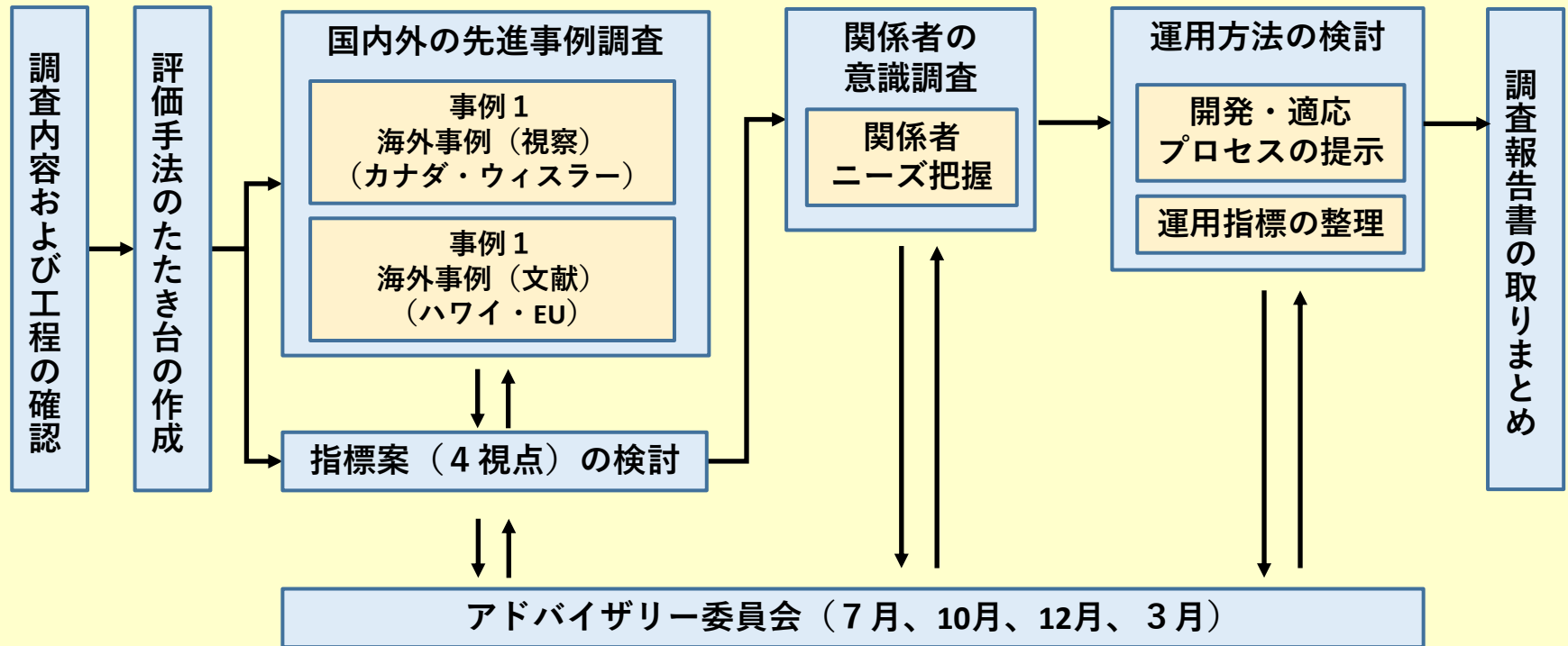
○県関係部署と下記の外部有識者で検討

- ・ 国立大学法人 琉球大学 観光科学科
- ・ （一社）沖縄観光の未来を考える会
- ・ （一社）日本旅行業協会
- ・ （一財）沖縄観光コンベンションビューロー
- ・ 沖縄振興開発金融公庫

○平成26年度から運用開始

沖縄観光成果指標検討事業

成果指標の作成の流れ



国内外の調査や関係者の意識調査の都度、アドバイザー委員会で内容を確認しフィードバック。

沖縄観光成果指標検討事業

【沖縄観光成果指標の項目】

no.	項目	no.	項目
経済		県民	
1	航空旅客提供座席数	21	県民所得
2	宿泊施設(収容人員)	22	渋滞(昼間12時間平均旅行速度)
3	二次交通(レンタカー・一般貸切旅客自動車車両数)	23	観光客比率(定住人口換算)
4	観光収入	24	県民旅行の実施度
5	観光客の消費単価	25	住みやすさ(定住の意向)
6	観光客の滞在日数	26	観光施策の重要度に対する意識
7	宿泊者数(人泊数)	環境	
8	客数(MICE参加者)	27	最終エネルギー消費量
9	客数(主要観光施設入場者)	28	温室効果ガス排出量(二酸化炭素排出量)
10	季節変動(入域観光客数)	29	環境認証(エコアクション21認証事業者数)
11	経済波及効果	30	ビーチ(主要水浴場の水質(期間中))
12	雇用者数(宿泊業、飲食サービス業)	31	エコツーリズム(保全利用協定の認定状況)
観光客		32	保全エリア(自然環境保全地域の指定状況)
13	入域観光客数	33	景観(景観行政団体)
14	外国人観光客数	34	世界遺産(訪問者数)
15	バリアフリー対応(沖縄県福祉のまちづくり条例適合証交付施設数)	35	文化財(国・県・市町村指定文化財件数)
16	外客対応(通訳案内士等登録者数)	36	文化・スポーツイベントの集客
17	接客待遇(沖縄観光タクシー乗務員資格認定者数)	マネジメント	
18	旅行全体の満足度(国内客)	37	県観光予算
19	旅行全体の満足度(外国人客)	38	市町村観光予算
20	リピーター率	39	市町村観光計画の有無
		40	市町村観光協会の有無

経済・観光客・県民・環境・マネジメントの5項目

沖縄観光成果指標検討事業

(総括シート)

各項目ごとに「→」で状況を表現。

沖縄観光成果指標：総括シート

経済指標

なぜ計測するの？
この指標の軸が沖縄観光に、とって重要な理由について、記載しています。

何を計測するの？
この指標の軸で計測している、主だった個別指標について、記載しています。

指標	最新DATA	計測年	1年	3年	10年
A01: 航空機発生数	9,940 千機	H24 年度	↑	↑	↑
A02: 宿泊施設(宿泊人数)					
A03: レンタカー車両数	25,464 台	H24 年度	↑	↑	↑
観光収入					
A04: 観光収入			→	→	
A05: 観光客の消費単価			→	↘	
A06: 観光客の滞在日数			→	↑	
A07: 宿泊客数	1,621 万人泊	H24 年度	↑	↑	↑
A08: 客数(観光客)	88 千人	H24 年度	↑	↑	↑
A09: 客数(主要観光客)					
A10: 事前予約(入城観光客)	0,702 千ポイント	H24 年度	↑	↑	↑
経済波及効果					
A11: 経済波及効果	6,767 億円	H24 年度	↑	→	→
観光効果					
A12: 従業客数(宿泊・飲食サービス業)	41 千人	H24 年	→	→	→

今回の調査結果
この調査結果については前年比1.4%増となったものの、観光収入としては前年比5.7%増と若干の伸びがありますが持ち直しました。ただし、244
今回の計測結果について、簡単に解説しています。

(個別シート)

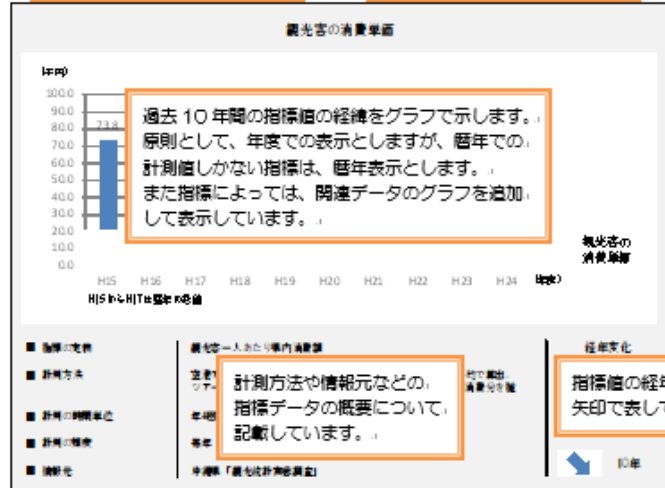
各項目に関わるグラフ等を掲載。

沖縄観光成果指標：個別シート

A05: 観光客の消費単価

なぜ計測するの？
この個別指標を沖縄観光成果、指標に採用した理由について、記載しています。

何を計測するの？
この個別指標が具体的に何を、計測した結果であるかを記載、しています。



今回の調査結果
H24年度の観光客の消費単価は、67.45円となり、前年比98.6%(1.4%減)となった。3年トレンドでH22年度比95.0%(4.9%減)。
今回の計測結果について、簡単に解説しています。

備考
この個別指標に係る県計画上の目標数値や、他地域における関連指標の計測地などの、関連情報を記載しています。

沖縄観光成果指標検討事業

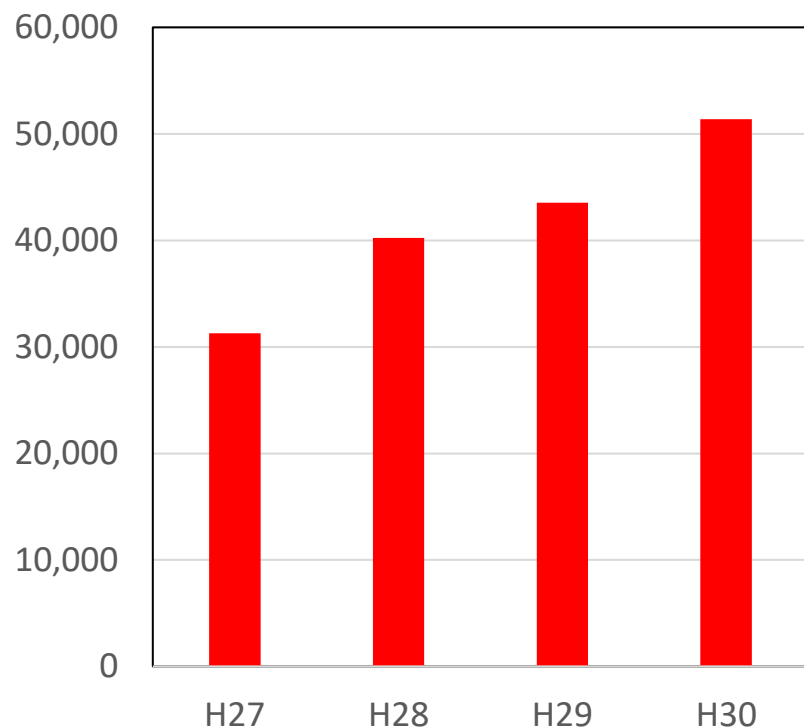
成果指標の確認方法

指標候補		データソース
QOL		
生活	県民総所得	県民経済計算（統計課）
	渋滞（昼間12時間平均旅行速度（km/h）沖縄県合計）	全国道路・街路交通情勢調査（道路交通コンセンサス）一般交通量調査（国土交通省）
	観光略比率（定住人口換算）	観光統計実態調査（観光政策課）
	県民観光の実施度	観光統計実態調査（観光政策課）
attitude		
意識	住みやすさ（定住の意向）	県民選好度調査（企画調整課）
	観光施策の重要度に対する意識	県民選好度調査（企画調整課）
global environment		
地球環境	エネルギー消費量	エネルギー消費統計（経済産業省資源エネルギー庁）
	ごみ総排出量	一般廃棄物処理事業実態調査（環境整備課）
	温室効果ガス排出量（二酸化炭素排出量）	温室効果ガス排出量推計結果（環境政策課）

他部局や国等の調査結果などを用いてモニタリングを実施。

成果指標の見直しの必要性(例)

レンタカー登録台数



空港のレンタカー送迎バス乗り場



レンタカーの台数が増加傾向 ⇒ **渋滞や事故**が懸念

現在は**台数**のみ項目にある。

(Wi-Fi、キャッシュレス、民泊なども要検討)

市町村との連携

- 県内41市町村中37市町村で観光基本計画等を策定。
- 島嶼県で各圏域で課題が異なるため離島単位で完結すべき問題が多い。

⇒ 原則、市町村主体で対応

県では、県全体を捉えるものとして指標を作成するが、市町村独自で作成する際の指南になるものを意識。

市町村との連携(例)

○竹富町 人口約4,300人、役場職員数約130人 (竹富町役場HPから)

※ 西表島など自然豊かな複数の離島を抱えており、カヌー・トレッキング・ダイビングなど自然を生かした観光が人気。

(竹富町)



(八重山圏域)



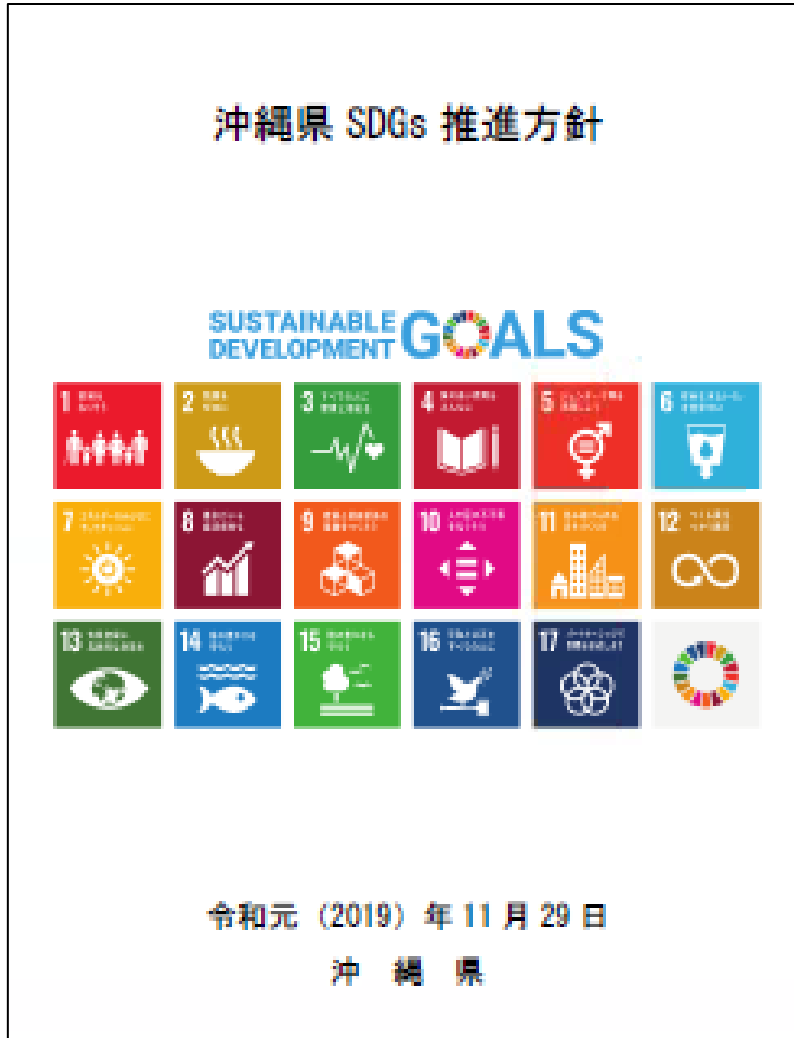
○奄美沖縄世界自然遺産登録に向けて国、県、町で連携し

・ **世界遺産推進室を設置** (県は自然保護課内に設置、町には環境省から職員出向)

・ **「持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画」策定**

(上水道の容量に基づき入域観光客数の1日あたりの受入容量の基準値を1,230人に設定)

沖縄県SDGs推進方針



沖縄県SDGs推進本部は、
2019年11月29日に、
「沖縄21世紀ビジョン」
の将来像の実現に向け、
全県的なSDGs推進のための
基本的な方向性等を
「沖縄県SDGs推進方針」
として決めました。



観光分野以外でも推進



音は風に乗せると、
その土地に染まる。
とても元気な音になる。
この島は、
元気な音にあふれている。

Be.
Okinawa

忘れられない一瞬へ。



出会いが大切なのは、人間と一緒に。
すてきな出会いをたくさんして、
たのしい時間を過ごしてほしい。

Be.
Okinawa

忘れられない一瞬へ。

落ち着いた際はぜひ沖縄へ